

## 旧塔世橋常夜燈 ①

もと旧塔世橋南詰めにあったもので、「部田の常夜燈」と呼ばれ旅人の安全、神宮への感謝などを願って建てられたもの。その後四天王寺薬師堂前に移され、さらに現在地に移築したもの。天保元年（1830）建設、春日型の高さ3.5mで、龍などの細かい細工模様があり、願主・世話人の名が刻まれています。

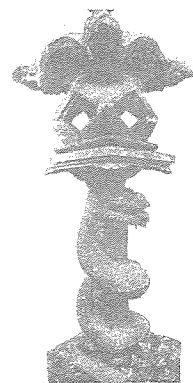


## 園上一雄雲造像碑 ②

日露戦争に従軍して死没した氏の追懷碑。

## 龍に籠 ③

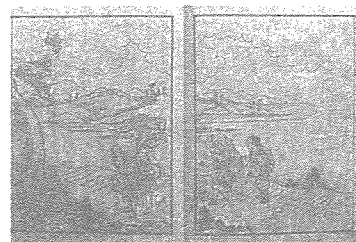
龍の形をした珍しい灯籠で、頭上に火袋と獸口のついた笠石をのせ、身をよじっている。藤堂高虎が朝鮮から持ち帰ったとも、二代藩主高次が江戸で作らせたものを移したもののともいわれるが、はっきりしていません。



## 孝女登勢碑 ④

登勢は天明8年（1788）員弁郡阿下喜村の農家に生まれ、奄芸郡山田井村へ養女となり、さらに6歳の時、安濃郡連部村の養女となりました。養父母は病弱なため野良仕事が出来ず、貧窮で家屋敷も手放す有様でした。登勢はこの養父母を養うために、昼は奉公に出て、夜は養父母に孝養を尽くしました。また、湯治のために熊野や善光寺へも介抱しながら参詣するなど、その姿は人々の涙をさそったということです。

津藩主10代高兌はその孝養を聞き、米20俵を与え賞し、田1反(10a)余もさずけました。墓は安濃町連部にあります。篆額は11代藩主藤堂高猷、撰者の川北長顙は極山と号し津藩の講官。

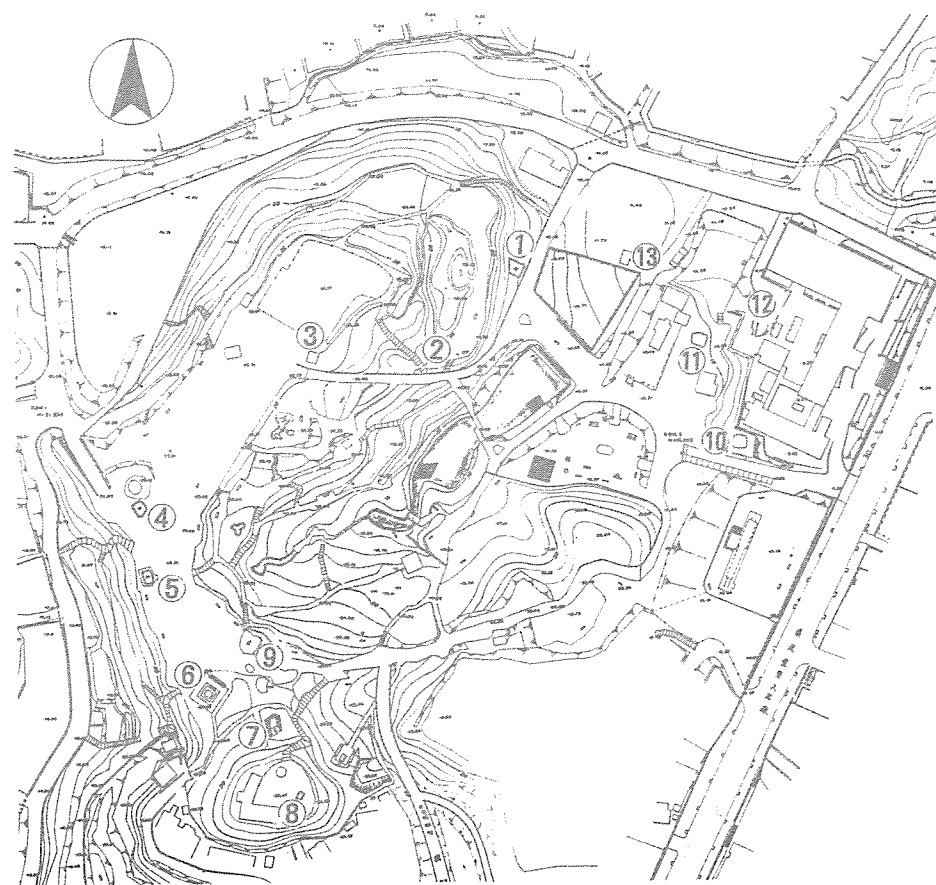


『松本家志』から転載

## 殉職警察官吏・消防組員招魂碑 ⑥

昭和10年警察協会三重支部と三重県消防協会により建てられたもので、それまでの殉職警察官25柱、同消防職員6柱の招魂碑。

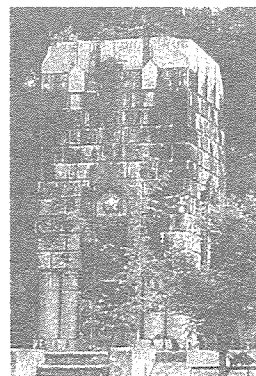
# 津偕楽公園の石碑・石造物



(原図 市役所街路公園課)

## 加藤嘉吉塔碑 ⑦

日清戦争に従軍した氏を記念した碑。

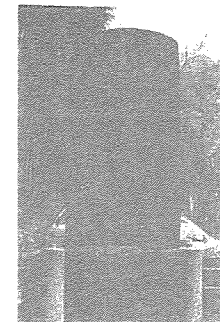


## 松本家一碑 ⑤

伊勢新聞の創始者の碑で、高さ5m余の巨大なもの。三重県内最初の日刊新聞となった第1号は、明治11年（1878）発行され18部の手書きでした。2号以下は活字印刷で、以来現在にいたっています。また、父の安親は松本崎の開拓者として知られています。碑文の終わりには「開紙の行、勢海と与に広し…」と結んでいます。

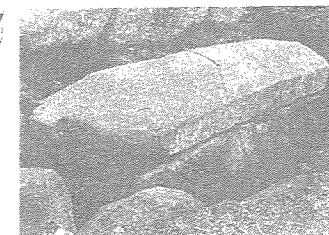
## 鍼師杉山繪検校模範碑 ⑬

本名杉山和一。津藩士の子として慶長8年（1603）生まれ、幼くして失明、江戸に出て鍼術をきわめて5代将軍綱吉の病にも施術し、ついに最高位の関東総検校になりました。また、鍼術の秘伝『三部集』を著しました。



## 鳥居吉成石室・石棺 ⑫

県庁の南西方の丘陵裾にあった古墳を移築したもので、両袖式横穴式石室の上部は無くなっています。全長6.77m、玄室幅2.2m。石棺は長さ2.6m、幅0.85mの刳貫式の身部と縄掛け突起のある蓋からなる家型石棺で、この付近の豪族の墓です。



## 齋藤嘉彌先生碑 ⑪

津藩の生んだ全国的にも著名な漢学者で、藩校有造館の督学となりました。晩年は茶磨山荘（鳥居町）にこもり、天下の文人墨客と交友しました。『拙堂文話』『月瀬記勝』などの著書も多く、また海外事情にも通じました。



(斎藤正和氏提供)

## 中山武平君頌徳碑 ⑩

明治2年安濃郡村主村に生まれ、養蚕業の発展に寄与しました。県高等養蚕伝習所を明野に開設し、関西製糸株式会社を設立するなど活躍しました。また、地方行政の刷新、教育施設の充実、公共事業にも尽力しました。

## 三重県公園記念碑 ⑨

明治10年建設のもので、三重県公園として整備されたいきさつや、偕楽公園の四季の美しさを賞賛して勉学の大切さを説いています。撰並びに書の福井氏は伊勢神戸藩士の子で、明治期に安濃郡長になっています。

## 征西陣亡士卒招魂碑 ⑧

明治10年（1877）起こった西南戦争で死亡した兵士の招魂碑で、当時の第八大区（津町・安濃郡）出身の兵士名22名の名が記されています。文中には佐賀の乱、熊神風連の乱、秋月の乱、萩の乱も含め徴兵・収集された兵士が戦場に赴いた時の様子も述べています。また、碑の裏に明治24年（1891）濃尾地震で倒れたため同26年修理再建したことも記しています。撰の中内惇は津藩士の子で、明治初年督学参謀になっています。

